

「草津の美味しいお米をお届けしたい」の想いをカタチに。

草津の頑張る企業 Vol29

いちうらのうえん

一浦農園

所在地：草津市志那町2889-2

TEL：090-3655-2831

創業：平成19年

代表
一浦 秀樹 氏



今回ご紹介するのは、主に水稻・麦・大豆を生産され、作付面積約40ヘクタールと、草津市内でも有数の規模を誇る一浦農園さんです。

代表の一浦さんは、草津ブランドの1つである、近江草津米「匠の夢」の生産に取り組むメンバーでもあります。「匠の夢」は、米のおいしさを示す食味値が85点以上、かつ外観1等級という厳しい基準をクリアした極上草津市産米コシヒカリで、草津市内の9つの農家とともに、草津市産米の魅力を発信し、品質の良いものを提供しようというミッションのもと、手間を惜まず、美味しいお米づくりを追求しておられます。また、『美味しいお米をつくること』がモットーの一浦さんは、2016年の米・食味分析鑑定コンクール

で、「秋の詩」の品種において滋賀県代表に選ばれ、全国で特別優秀賞を受賞された経歴もお持ちで、まさに米づくりの匠の1人です。



“消費者目線に立った”美味しいお米づくり

かつての稲作は、どれだけ豊作であったかが喜びでもありましたが、今は、消費者という相手がいてこそだという考えから、お客様に支持いただける美味しいお米をつくることをこだわりられています。5年ほど前から、この土地にあったオリジナル肥料「俺の肥 一浦スペシャル」を特別に注文し、使用されていますが、オリジナル肥料を作られたのも「美味しいお米をつくるための1つの過程。美味しいお米をつくるためには、そうせざるを得なかったというだけで、ストーリーはそれほど必要ではない。お米のおいしさが全てです。」と一浦さんはおっしゃいます。そして、「おいしかったと言ってもらえるのが、農家としては一番やる

気が出ること。」だと笑顔で話しておられました。

また、消費者目線に立ったとき、食品の安心・安全は基本となります。そこで、「匠の夢」グループがベースとなり、「GOOD GAP 932部会」として、滋賀県で初めて、JGAPの団体認証を取得されました。商品の生産管理はもちろん、機械の管理や労務管理によって働く人にとっての安全性も含めた管理体制で食の安全を届けておられます。安心・安全に取り組む農場として、消費者から信頼されておられるのですね。



オリジナルの一浦ブランドへの想い

一浦農園さんは、現在、市内の農家としては珍しく、自社のオリジナル米の販売に取り組んでおられます。米袋のデザインは、墨を使って描く武人画師のこうじょう雅之さんがデザインしたものです。一浦さんがお米にかける想いを伝えると、パッケージデザインを引き受けてくださり、商品化に至ったそうです。今後は、「近江 武人米」として、オリジナルブランド米を確立していこうとおられます。誰もが惹きつけられるようなパッケージをきっかけとして、草津市民を含め全国の人に、滋賀県草津市にも美味しいお米があることを知ってほしいという、一浦さんの想いをカタチにする力を感じます。

